優秀賞

閉館となった児童館を活用した多世代サロンを始めとした居場所づくり支援

南押原友遊館管理運営協議会

取組をはじめたきっかけは何ですか？

友遊館事業は、人口減少、少子高齢化に危機感を持ち、何か出来る事はないかと危惧していた時に、鹿沼市より「閉館する児童館の建物を地域で活用出来ないか」との話があったことから、平成28年8月事業の検討を開始しました。住民へのアンケートの結果、「このまま人口が減少し、住民同士の人的交流が減少すれば、社会的に弱い立場にある高齢者や子ども達の生活や教育への不安」、更には「日常生活にも不安を感じる」との意見が多くあり、それらを解決するためには、住民が集い、学び、支え合う地域住民の居場所が必要と考え、鹿沼市の地域の夢実現事業補助金を活用して、南押原地区の拠点【友遊館】を整備し、多世代サロンを始めとした居場所づくり支援がスタートしました。

どんな取組を行っていますか？

住み慣れた地域で将来にわたり安心して暮らしていくには、『向こう三軒両隣』お互い様の精神を地域全体へ広げ、温かく住みやすい地域にしたいと考えました。そのために、地域住民がより交流出来るように、幼児・子ども・高齢者と世代毎のサロンを実施し、更に月に1度同時開催により、多世代交流を実施しています。

幼児サロンは、スタッフが幼児の面倒を見ることでママ同士の交流が生まれ、子育ての悩みや心配事を気軽に話せる場として、子どもサロンは、学童保育に行かない、行けない児童を対象として居場所を提供し、学習、運動と学校後の児童の成長を見守る場として、地域の子育て支援をしています。高齢者サロンは、会話や外出の少ない高齢者と共に、介護予防体操やお茶飲み会を開催し、楽しい仲間づくりや活動を行い、各地区で開催する高齢者サロンには、気が引けて参加し難いという方に対しての居場所としても開放しています。

また、福祉事業は、財政的に負担がかかる面もあるため、福祉事業を財政的にも支える収益事業と分けて運営していますが、そこにも交流の場が出来るよう工夫し、独立採算出来る仕組みを作っています。

子どもサロンと同時に駄菓子屋を開催し、子ども達の金銭感覚を養うとともに、子どもから大人まで集い、楽しめる場にしています。

また、高齢者サロンと同時に、農作物販売を実施し、高齢者の庭先で生産された農産物の直売や、農産物以外の総菜や民芸品や鉢物なども販売し、地域おこしと交流の場、さらに高齢者の生きがいづくりを兼ねた収益事業を行っています。

そして、毎週水曜日には友遊館カフェを開催しています。カフェは常連客も多く、また、他事業のスタッフが事業終了後カフェに集まり、スタッフ同士の楽しい居場所にもなっています。

福祉というと、弱い立場の事ばかり考えがちですが、それだけではなく、地域のいろいろな世代がスタッフとして関わることで、利用者と担い手が一体となって楽しめる全ての住民の『居場所づくり』が大事だと考えています。

取組を行う際のポイント

まず、いかに多くの人にスタッフになってもらえるかがカギです。現在のスタッフ約120名は、一般公募、個人的なお願い、誘い合いと多くの方法で集めました。

また、利用者からスタッフになってくれる場合もあります。一般的に有償の方が長く続きやすいと言いますが、友遊館では、無償の方が休みやすく重荷にならないという意見から、スタッフはみんな無償で手伝ってくれています。

なお、それぞれの事業に班長・会計をお願いし、各自、自主的に運営することで、創意工夫がなされ、発展につながっています。

これからの活動について

友遊館は、現在全部で15事業を展開し、5年運営してきましたが、南押原住民一人一人が多くの「人とのつながり」を持て、さらに同時開催を設ける事により、それぞれが支え合い、教え合いをして、スタッフと利用者が一体化しています。

また、スタッフ同士のつながりが強くなり、居場所づくりの「はば」が広がっています。

これからは、これらの成果を生かしつつ、さらに多くの利用者が居場所として見い出せるように、活動をより工夫して、活動そのものを根底から支える財政的な面もさらに考えていきたいと思います。

多世代サロンを始めとした居場所づくり支援

◆場　所　　鹿沼市楡木町492-2

◆実施日

・高齢者サロン　月1回　第1水曜日
・子どもサロン　週2回　水・金曜日
・幼児サロン　月2回　水曜日　10:00～12:00
・カフェ事業　毎週　水曜日　10:00～12:00
・駄菓子屋事業　週2回　水・金曜日
（子どもサロンと合わせて実施）
・農作物販売　毎月第1水曜日
（高齢者サロンに合わせて実施）

※ 月に1度、多世代サロンとして　全事業を開催

農作物販売の様子

地域の中にあっては、欠くことの出来ない大切な居場所、心の支えとなる交流の場として、さらに充実していきたいと思います。

日常生活の中でよく交わされる「他愛(たわい)もない会話」は、たとえ他愛がなくても、私たちの心を和らげ豊かにしてくれます。ましてや「他愛もある会話」はさらに、支え合い、助け合い等、人と人との結びつきを強くしてくれる意味合いを持つものです。

私たちが始めたこの事業は、ボランティアの皆さん温かい心に支えられながら、地域の人達が気軽に互いに交流を図れる「居場所づくり」を目指しているものです。人口減少が進行している地域の中にあっては、欠くことの出来ない大切な居場所、心の支えとなる交流の場として、さらに充実していきたいと思います。

南押原友遊館管理運営協議会　館長　鈴木　節也

団体概要

団体名 ｜ **南押原友遊館管理運営協議会**
所在地 ｜ 鹿沼市楡木町492-2
代　表 ｜ 館長　鈴木　節也
事業内容 ｜ 多世代サロン(高齢者・子ども・幼児サロン)を始めとした居場所づくり事業　等

評価のポイント

閉館となった施設を活用して地域のボランティアが協働し、多世代サロン運営のほか様々な事業を実施し、それらの事業をうまく連携させながら幅広く展開していることが、高く評価されました。

近年家族や地域のつながりが希薄化している中、多世代の住民が気軽に集える場所があることで地域の交流を活性化させ、また、閉館となった施設を社会資源として活用することで、地域の持続にもつながるものと考えます。